

## 公共図書館における医学情報提供サービス ー可能性と課題ー

常世田 良

### I. 社会の変化と情報インフラ整備の必要性

図書館はその置かれている地域のニーズに合ったものでなければならないといわれる。

つまり理想的な図書館がどこかにあるわけではなく、図書館が存在する地域に合った運営ができれば、それが理想的な図書館だということである。そうであるならば、例えば現在のように地域の変化のスピードが速い場合は、その変化の先を読んで図書館の運営をしなければ、たちまち地域のニーズとかけ離れた、つまり理想とかけ離れた図書館になってしまう可能性がある。また他の地域からの影響を考える必要もある。例えば、ニューヨークの株式市場で何か変化があれば、その次の日には日本の株が乱高下する、中国から野菜が入ってくれば、アツという間に身近なスーパーの野菜の値段が乱高下するという状況は、わが国の歴史をみてもこれまでなかったことで、これらの要素を複雑に反映して各々の地域は変化する。したがって図書館の運営は、これらの社会の変化によって地域の市民の生活が具体的にどのような変化を受けるかを想定して組み立てる必要があると思われる。

### II. 「自己判断自己責任」型社会への移行

社会の変化と図書館のあり方を考えるときに、最も大きなポイントとなるものは「自己判断自己責任」型社会への移行ではないかと考える。わが国の社会のあり方は、諸外国と比較した場合、中央集権的であり個人は大きな系列の



中に位置づけられることが多かったといわれている。また、個人や集団は、個性的・創造的であるよりは他者との差別化を必ずしも好まず、生き方や組織の運営のあり方も「キャッチアップ」型であることがめずらしくなっていたといわれている。結果であるか原因であるかは別として、日本人は一般的に横並びを好み、必ずしも独創的ではない国民であると評価されている。

ところが現在、その日本の社会に大きな変化が起こりつつある。直接の引き金となったものは国家財政の破綻といえるが、その他さまざまな原因によりわが国はいわゆる「自己判断自己責任」型社会へ大きく舵を切り始めている。

大企業は生産拠点を海外に移すことにより、従来の下請け、孫請けの企業系列を崩し始めている。行政では「地方分権」「地方主権」「道州制」など従来の国、県、市町村という中央集権的な枠組みが大きく崩れ始めている。個人のレベルでも銀行のペイオフ制度など、個人が判断を迫られる度合いが飛躍的に増加しつつある。

### Ⅲ. 「自己判断自己責任」型社会のリスク

従来の日本の社会においては、個人や小さな組織は巨大な系列の中に位置づけられることが多かったため、外部から判断を迫られ、責任を問われる度合いは比較的小さかったといえる。また、大きな組織は相応の情報収集能力を持つために、大きく判断を誤る確率は相対的に少ないことから、その組織内に所属する個人や小さな組織は大きなリスクを負う危険は相対的に小さかったといえる。しかしながら、系列が崩れ、個人や中小零細企業など小さな組織が孤立した場合、十分な情報収集能力を持たないために、適切な判断を下すために必要な情報を収集できず、判断を誤る確率が高まり、結果的に人生や組織の運営において失敗するリスクが増大する。

日本の社会が自己判断自己責任型の社会に移行するのであれば、せめて個人や小さな組織が適切な判断を下すことが可能となる、必要十分な情報を提供する社会的インフラの整備が不可欠である。例えば、ある銀行が倒産するという情報を一部の人たちのみが持っていて、自分たちの財産を他の銀行に移し、一方他の大部分の人々は何も知らないまま、ある日、銀行が倒産し大損害を被る。しかし、それは個人の責任だとされたならば、大きな社会不安の原因になることは明らかである。

アメリカの社会は一般的に自己判断自己責任型社会であるといわれているが、そのコンセプトを実効あるものにするために、すべての国民が各種の情報に対して平等なアクセスの権利を持つことを標榜し、また実際に、図書館の整備をはじめとした情報政策を策定し、社会全体としても、たとえばマスコミの自律性を担保しようと努めている。

### Ⅳ. 市民の情報環境の変化と従来の情報システムの限界

企業の内部、教育の現場、地域家庭において、インターネットをはじめとしてわが国の情報環

境は劇的に変化しているが、個人や小さな組織にとって真に必要な情報が確保されているか否かという点においては、一見膨大な情報が存在しているかのように感じられるが、特に体系的網羅的かつ正確な情報を必要とする場合、現状の Web 環境、マスコミ、出版流通はいずれも不十分といわざるをえない。

欧米に比べて情報インフラが未発達である原因としては、社会全体が「キャッチアップ」型社会であったこと、また、個人や小組織が大きな系列の中に包含されて、自前で情報を収集する必要が少なかったことがあげられる。つまり需要そのものが少なかったために、供給の側が未発達であったと考えられるのである。新しい情報インフラの整備や従来型の情報インフラを各々整備することには、膨大なコストと時間が必要とされる。一方、図書館の充実により情報へのアクセス環境を整備することは他の方法に比べてコストも時間も比較的小額、小規模で達成できる。

### Ⅴ. 見直される公立図書館の機能

公共施設の中では、図書館は最も敷居が低い施設だといわれている。実際ほとんどの自治体において市民の利用率が最も高い施設が図書館である。医療相談や法律相談などの窓口で毎日市民が列をつくるなどということはほとんどありえないことであるが、土曜日や日曜日の公立図書館においては、ラッシュ並みの混雑はめずらしいことではない。図書館は日常的に利用される施設であることから、「どこにあるのか」「どのような人がいるのか」「どのようなサービスをしてくれるか」が市民にとっては明白である。気心の知れた図書館員がいて初めて自らの病気のことや仕事上のトラブルを相談できるのである。健康上の問題や仕事上のトラブルでただでさえ精神的に追い詰められている市民が、「どこにあるかもわからず」「どのような人間がいるのかもわからない」窓口へ出向くであろうか。

また、特化した窓口からは特化した情報しか得ることはできない。日常的なトラブル、例えば病気や仕事上の問題などは、多くの場合多様な問題が複雑にからみあっている。したがって、周辺情報や隙間情報といえるようなさまざまな情報が必要とされるが、特化した窓口ではその一部分に関する情報しか提供できないことが多く、全体的、総合的解決に至らないことが多いのである。多様な情報を所蔵している図書館と特化した窓口との間には、このように市民にとっては決定的な違いが存在するが、従来窓口を運営する側はこの差異に関して、ほとんど省みることはなかったのではないか。

## VI. 地域の「自己判断」のために、強化すべき図書館の機能と役割

従来わが国の公立図書館においては、医療、ビジネス、法律の各分野における情報提供サービスは欧米諸国に比べて不十分であったといわざるをえない。主たる原因は、人的にも予算的にも施設の的にも不十分なことにあるが、市民のニーズに対応する意欲に欠けていたことも認めざるをえない。健康医療、法律に対するニーズが非常に高いことは、従来からリクエストやレファレンスの件数が多いことから推測できたことであり、また最近取組む図書館が増えているビジネス関係のサービスについても、サービス開始と同時に市民の多様な要求が顕在化することからも大きなニーズが存在することがうかがえる。図書館自体の存在価値を高め、専門職や予算を獲得するためにもこれらの分野の情報提供サービスの拡充は、欧米において実施されているように政策的に進められなければならない。

従来、館種を越えた連携（レフェラルサービス）については、必要性は認識されていたものの、具体的な連携の実例は小規模なものに留まっている。しかしながら、健康医療、ビジネス、法律分野の情報提供を行うとなれば、必然的に公立図書館と大学図書館、専門図書館など

との連携が不可欠となる。

## VII. 健康医療分野に関する市民ニーズの状況

世論調査によれば、多くの市民は自らの健康に対し大きな不安を抱くとともに情報が不足しているという意識をもっている<sup>1)</sup>。一方で健康医療に関する情報源はマスコミ、知り合い・家族、主治医などとなっている。マスコミからの情報は必ずしも信憑性の高いものばかりではなく、知り合い・家族からの情報は本人と似通った情報源からのものであり、信頼性に疑問がある。また主治医からのみの情報では進歩のスピードが速く、細分化された医療分野からの情報が適切に伝わるとはいいい難い。

一方、アメリカではがん患者の50%以上がsecond opinionを得ているというデータがある。

## VIII. 公立図書館におけるサービスの状況

わが国の比較的規模の大きな公立図書館において、なんらかの形で健康医療情報を利用者に提供しているとする図書館は36.6%である。また利用者の側に健康医療情報に関するニーズが存在すると考えている図書館は78.2%にのぼる。しかしながら、公立図書館における健康分野の資料の割合は2%にすぎない。また専門的な資料が少なく健康医療分野のデータベースの導入が極端に少ない。さらに専門機関とのネットワークが存在せず、職員の研修体制も不十分である<sup>1)</sup>。

一方わが国の公立図書館においては、少数ではあるが、ハンディキャップサービスの一環として、または「病院サービス」として入院患者、外来の患者、病院の医療従事者及び事務局職員に対する図書の出借や小児病棟での読み聞かせなどを実施している例がある。これらのサービスにおいては、付随的に健康医療分野の情報を提供していることも多い。さらにこれらの図書館では、大学や病院の附属図書館との連携に取り組む例もある。

以下は公立図書館における健康情報サービスの例である。

□東京都立中央図書館

- 医療情報コーナー
- 闘病記文庫を開設
- いますぐ役立つ医療・健康関連リンク集

<http://www.library.metro.tokyo.jp/ln/index.html>

□鳥取県立図書館

- ホームページに「鳥取県立図書館の目指す図書館像」(案)を公表  
「仕事とくらしに役立つ図書館」として「新しく・正しい医療・健康情報を提供します」
- タイアップ事業として「健康情報まるごと講座」実施

[http://www.library.pref.tottori.jp/event/Z\\_toshokanzo.html](http://www.library.pref.tottori.jp/event/Z_toshokanzo.html)

□市川市立図書館

- 医学関連資料分類・件名検索
- 医学関連サイトリンク

<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/tosyo/db/indexmed.html>

□横浜市立中央図書館

- 医学分野の資料が豊富
- 「医学中央雑誌 CD-ROM」を利用者に提供
- 横浜市立大学医学部との連携
- 昨年度は情報検索講座で健康情報検索をとりあげ、現在は情報発信として「発達障害」の資料・サイトリストを公開している。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/library/hattatu.html>

**Ⅸ. 公立図書館と医学機関・医学情報機関との連携**

先に述べたように、健康医療分野の情報提供サービスを実施するためには、館種を越えた連携が不可欠である。

各地で具体的に連携を深めていくために、当初のきっかけは極めて重要である。まずは双方の担当者間で各々の現場における情報交換などから着手し、資料の相互貸借、資料の複写、レファレンス支援、協同研修(勉強会)などへ段階的に進めることが望ましい。

連携を実施するための環境整備に関しては、相互の視察受け入れや当該機関の内部や周辺のキーパーソンへの働きかけなどがポイントである。また、公立図書館からハンディキャップサービスや病院サービスを提供することも連携を開始するためには非常に有効である。

**X. さいごに**

2007年問題や高齢化社会の問題の大きな部分は、健康医療問題である。図書館が館種を超えた連携により、地域社会における医療コストの削減をはじめとして様々な医療問題に対して貢献できることは、欧米の例をみても明らかである。図書館の現場において具体的に取り組むことはもちろん重要なことではあるが、同時に国の政策として実施されるよう働きかけることがさらに重要なことであると考える。

**引用文献**

- 1) 杉江典子：わが国の公共図書館による健康情報提供に関する実態調査。現代の図書館。2005 ; 43 (4) : 183-92.

**参考文献**

- これからの図書館の在り方検討協力者会議。これからの図書館像：地域を支える情報拠点をめざして：報告。[これからの図書館の在り方検討協力者会議] 2006.
- 菅谷明子。未来をつくる図書館(岩波新書)。東京：岩波書店；2003.
- ALA 参考業務・成人サービス部会基準・指針委員会。医療情報・法情報およびビジネス情報に関わる参考業務のための指針；1992.
- 岡部一明：アメリカ公共図書館の商業データ

- ベース提供. 現代の図書館. 37(2); 1999.
- 竹内愨. 図書館のめざすもの. 東京: 日本図書館協会; 1997.
  - 地域電子図書館構想検討協力者会議. 2005年の図書館像: 地域電子図書館の実現に向けて: 報告. [文部省地域電子図書館構想検討協力者会議]; 2000.
  - 根本彰. 情報基盤としての図書館. 東京: 勁草書房; 2002.
  - 松本功. 税金を使う図書館から税金を作る図書館へ. 東京: ひつじ書房; 2002.
  - 片山睦美訳. 現代社会における図書館の役割に関する決議—欧州議会 1998年10月23日議事録. まちの図書館でしらべる編集委員会編. まちの図書館でしらべる. 東京: 柏書房; 2002. p.190-202.
  - 鈴木康之, 坪井賢一. 浦安図書館を支える人びと. 東京: 日本図書館協会; 2004.
  - 常世田良. 浦安図書館にできること—図書館アイデンティティ. 東京: 勁草書房; 2003.